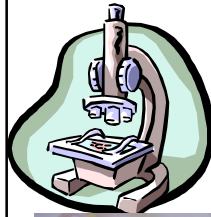


床ずれ通信No.1

2007/10/25発行

発行者NPO法人床ずれ研究会
理事長久保忠一
事務局千葉県鴨川市広場1709
Tel/fax04 7093-6030

ホームページ: <http://tokozure.kamogawa.jp>
E-mail: tokozure@kamogawa.jp



研究風景

写真提供:
千葉科学大
学薬学部免
疫微生物学
教室岡本能
弘准教授

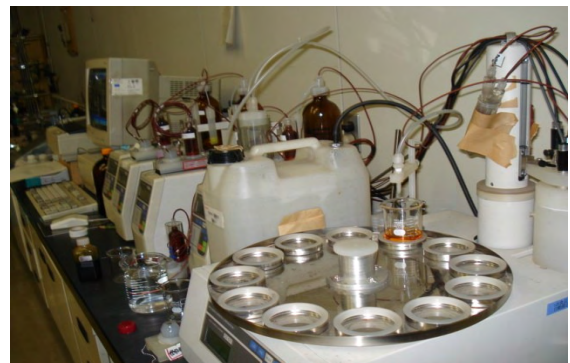


トリーダー

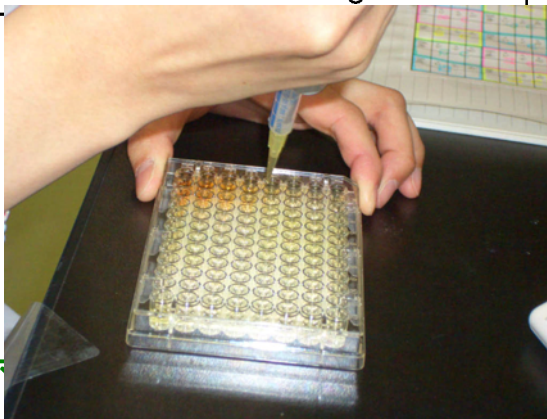


Immunoassayの際、プレートを洗浄する

解説: 上の三つの写真は、傷口から採取した滲出液に含まれる肉芽の形成に関わるb-FGFというタンパク質を測定しているところ。下の写真は、薬剤に含まれるヨウ素を電位差滴定という方法で定量分析しているところ



発足(十九年二月十七日)以降の活動概要(ホームページも参照してください)
学会参加三回(褥瘡学会全国学術集会及び地方会三月三日北海道、五月十八日関東、九月七・八日全国)
学会発表三演題(同)
講演会開催一回(八月四日鴨川市ふれあいセンター)
勉強会開催一回(三月二日宮城県永仁会病院)
基礎研究 千葉大学、千葉科学大学、岩手医科大学、エレクトロニクスセンターで継続中
臨床研究 エビハラ病院他三病院継続中
製剤技術開発 共同開発を一社と継続中



代表久保忠一
プロフィール
1960年鴨川生まれ
薬剤師・ケアマネジャー
現在エビハラ病院薬剤師及び家業久保薬局でも従事
日本褥瘡学会、日本創傷治癒学会、日本細菌学会、ヨウ素学会

超高齢化社会に備えて寝たきり防止と床ずれ予防・治療法の研究
床ずれ研究会は、床ずれの研究と地域ボランティアを両輪に今年二月の総会を持って発足し、五月に正式な認可を受けました。十月現在の会員数は二十人(正会員十三人、特別会員二人、ボランティア会員五人)、内訳は医師三人、薬剤師四人、理学療法士二人、看護師一人、大学教授等研究者四人などとなっております。今後も医療・介護保険制度等の既存の行政、民間サービスのニッチを埋めて真に地域社会にも貢献していきたいと思っておりますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

お知らせ

第2回講演会は20年1月26日(土)2時半頃より亀田医療専門学校2階ホールにて開催いたします。タイトルは「高齢者の皮膚疾患とスキンケア」(予定)、講師は当NPO相談役で、白癬(水虫)の臨床研究では第一人者で、専門誌に多く執筆される、揖斐厚生病院皮膚科部長藤広満智子先生をお招きします。奮ってご参加

褥瘡予防の原点はリハビリ

八月四日の第一回講演会では、特別会員で帝京平成大学専門学
校理学療法学科長の長尾邦彦先生をお招きしましたが、要に褥
瘡とは廃用症候群のひとつで、体重をしなやかな(例えばヘビ
のような)曲面で支えるのではなく硬直した狭い部分で支えよ
うとするところから起きてくる、ということでした。すなわち
関節が固まり硬縮することはより狭いポイントで体圧を受け
ることになることがわかります(写真下)。年をとれば胎児のよ
うに縮こまっていくのが自然の流れである、というのもある意
味正しいのでしようが、長い老後を快適に生き抜くためには元
気なうちから関節を柔らかくする訓練が必要と考えます。

医薬品メーカーの軽い嘆きと老人施設の深い悩み

例えば、褥瘡外用軟膏剤は二〇〇〇年頃をピークに、湿潤療法
特にラップ療法に押され、売り上げは減少の一途を辿り半減し
ていると言って過言でないでしょう。しかし、ごく一部のメー
カーを除き創傷及び褥瘡に占めるシェアはわずかであり、循環
器や感染症などのヒット商品(例えば年間売り上げ百億以上)
を出すことにエネルギーのほとんどを費やしています。褥瘡に
関与するメーカーにとっても褥瘡は片隅の分野であり、売り上
げ減もほとんど気にしていないというのが現実です。また、国
家財政からしてみても国民医療費は三十三兆円にも達する中
で褥瘡に占める割合は数百分の一なので、無視してよい領域と
言えるでしょう。しかし、たかが褥瘡と言っても、それを負担す
る老人施設などにとっては死活問題なのが現実です。特に介護
保険の施設では最初から決められた比較的低価格な診療報酬

あの鳥谷部先生も知っていた「床ずれ研究会」

九月七・八日の前橋での褥瘡学会で、たまたま相澤病院鳥谷部
俊一先生とお話できる機会が持てました。驚いたことに、先生
は私どものホームページの細かい点までご覧になっており、好
意的なコメントも幾つか頂きました。狭い褥瘡の「業界」で鳥谷
部先生を知らない人はおらず、ラップ療法提唱者としての異端
児扱いのものともせず、今では学会からも高い評価を受けられ
ていると言えます。誤解を恐れずに言えば、ラップ療法により
褥瘡の多くが改善したうえに、少なくとも年間数十億円の医療
費節約に貢献した実績は同先生によるところが大と考えます。
しかし、当然先生もこれでゴールとは考えておりません。同先
生などの努力により褥瘡治療に多くの医療者が前向きになっ
てきた土台の上に、今後は、微力ながらも我々を含めた多くの



朝焼けの北海道にも雪は・

旅行記

今年二月末から三月、褥瘡学会北海道地方会に参加する途中、協
力製薬会社の工場のある福島県白河市、宮城県古川の永仁会病
院様、盛岡の岩手医大の研究施設に立ち寄りしました。昨冬は温暖
化の影響でみちのく路にも雪はありませんでした。
当NPOの特別会員である岩手医大の世良耕一郎教授は、主に
PETによる腫瘍の診断のための検査の研究をされております。
ところが幸いなことに、私どもの、「どの被覆素材が、重要なミネ
ラル補酵素が付かず、自然治癒力を引き出すのか」という問題提
起と、「創傷部に用いる素材に付着する元素の違いにより、効果
が異なるのではない」とかという仮説に興味を持って下さり、PI
XEという表面元素分析法を用いて研究のお手伝いをしてくだ
さいました。無縁に思えるPETとも、実は陽電子を放出するこ
とによって生じる放射線を測定する、という原理が共通するか
らなのです。先生は、他にもこの原理を使って、特に環境問題の
調査を行なっており、地球規模の大変な問題も分析されます。例
えば海洋生物のホタテの中腸腺に含まれるカドミウムの量が四
百ppmになっていたり、鯨の油中の水銀が百ppm以上であつ
たりするということもわかり、白神山地の熊の腎からもカドミ
ウムが相当量分析できたそうです。色々な地球規模の要素があ
りますが、有害金属は生物学的半減期が長く、生物濃縮されるの
で、普通の食生活をしていてもこれらが原因で角化症から癌に
なる場合があり得るそうです。さらに、蔵王の樹水にも水道水の
十倍の金属が含まれ有害金属も検出されていたということ、